

「ありがとう西高！」新聞

発行元：「ありがとう西高！」実行委員会 広報室
Mail：nishikouarigatou@gmail.com

Instagram：nishikouarigatou
twitter：@nishiko_arigato
Hashtag：#ありがとう西高

西高祭直前、OBもブース出展

トークセッション、ピアノ演奏、ワークショップを予定

9月7日、8日は西高の文化祭。西高生だけの文化祭としては「最後の文化祭」となる。一般公開日は8日土曜日のみ。公開時間は10時～14時半（入場は14時まで）を予定している。卒業生の出展も決定しており、以下詳細をお伝えする。

公開日9/8土曜、OBブース詳細

▼主なOB関連イベント

12時～	トークセッション @南校舎4F・視聴覚室
13時半～	プロピアニスト演奏 @南校舎4F・視聴覚室
10時～ 14時	レザークラフト体験 @北校舎4F・教室

9月8日土曜日は、西高祭の一般公開日。「ありがとう西高！」実行委員会も、西高最後の文化祭を盛り上げるためOBとして参加する。

南校舎4階の視聴覚室では、12時から歴代の卒業生によるトークセッションが行われる。NACK5のDJでお馴染みのあらい太朗氏らが参加し、西高にまつわる思い出や、卒業後の経験など、多様な分野で活躍する卒業

生が本音で語り合う。また13時30分からはプロピアニストの丸山薫氏による演奏会が行われ、フィギュアスケートの浅田真央や羽生結弦が演技に使用したことでも有名なショパンの『ノクターン2番』と『バラード1番』、ドイツロマン派を代表するピアノ曲であるシューマンの『子供の情景』より『トロイメライ』など、不朽の名曲が演奏される。

いっぽう向かいの北校舎4階では、革細工職人の戸塚健一氏らがファシリテータとなってレザークラフトのワークショップを開く。二度と作れない西高産アイテムを手に入れる機会だ。

西高としての文化祭は今しか見ることができない。卒業生はぜひ懐かしい校舎を巡って思い出を振り返って欲しい。なお、駐車場や駐輪場には限りがあるため、公共交通機関を利用しよう。

SNSアカウント開設しました

本活動を広報するために、SNSアカウントを開設しました。ぜひフォローお願いします。TwitterとInstagramを開設。校内の歴史を感じる写真や、イベント風景を投稿していきます。まだまだフォロワーは少ないですが、西高関係者のフォローやRTをお願いします。



twitter：
@nishiko_arigato
#ありがとう西高



Instagram：
nishikouarigatou
#ありがとう西高

併せて、共通ハッシュタグを「#ありがとう西高」としました。皆さんも西高関連の投稿をする際は、ぜひハッシュタグ「#ありがとう西高」をつけて投稿ください。一人でも多くの卒業生に届きますように。

(SNS担当)

野球部3年生、OBと引退試合



去る8月26日、大宮西高校庭にて、野球部3年生と、野球部OBで結成されるマスターズとの試合が行われた。朝8時の試合開始に合わせて、マスターズ、現役3年生に3月に卒業したばかりの卒業生が加わって、総勢30名ほどの選手たちが集まった。

試合は1回表にマスターズが先制。2回に1点を追加するも、マスターズの攻撃はここまで。3年生は3回に2点を返し、同点に並ぶと、4回に2点、5回に1点を追加した。

試合の進行上、7回をもって試合終了を告げられると、劣勢のマスターズはタイブレークを提案。勝利目前の3年生は困惑しつつも、諸先輩の提案を受ける懐の広さを見せた。

ルールに則り、2死満塁から7回表が始まるも、マスターズは追加点を得られず、スコアは2対5のまま3年生が勝利。猛暑の中行われた試合も、清々しく幕を閉じた。

西高野球部による、世代を超えた交流戦も今年で最後。そう口々に漏らすユニホーム姿は寂しくも映った。

大宮西高伝

卒業してからも、西高との縁は続く

あらい太郎さん（漫画家、ラジオパーソナリティ）

現在活躍する大宮西高卒業生の素顔に迫っていくシリーズ「西高伝」。2回目は引き続き、漫画家、ラジオのパーソナリティなど、多方面で活躍している、あらい太郎さんだ。西高卒業してから現在に至るまでの軌跡をお聞きした。

「西高気質」を作曲

高校卒業後も、あらいさんと西高との関わりは続く。卒業後しばらくして「西高気質（にしこうかたぎ）」という吹奏楽曲を書いている。「長いマーチを書いたんですよ。途中、西高の校歌をアレンジして入れてるんです」。よく聞けば、そこは大宮西高の校歌と分かるそうだ。当時書き起こした楽譜はすべて手書き。何度か、吹奏楽部の定期演奏会で演奏されたという。この譜面、今も吹奏楽部のどこかに残っているのだろうか。どのような楽曲か、聴いてみたい。

「THE NOISE」という吹奏楽団を立ち上げたのも、当時のあらいさんだった。当初は大宮西高吹奏楽部のOBバンドという位置づけ。初回の演奏会を大宮市民会館（現在のさいたま市民会館おおみや）で行っている。演奏会にあたり、当時の大宮市長（新藤享弘氏）に招待状を送った。当日、市長は公務で来ることはできなかったが、オレンジジュースの差し入れをいただいたそうだ。それを縁に、あらいさんは演奏会のたびに招待状を送り、市長も公務が空いているときは足を運んでくれるようになったという。



メッセージを依頼したつもりだったが、本格的なイラストを描いていただくことに。ありがとうございました。

充実したプライベートが続く反面、仕事の調子が良いとは言えなかった。務めていた会社が立ち行かなくなり、退職を決意。次の職は決めていなかった。音楽活動もやめざるを得ない。その頃のあらいさんは、すでに結婚して長男が生まれていた。悩んだ末「漫画家になりたい……」そう夫人に打ち明ける。夫人は、しばし絶句したという。

最初は戸惑っていた夫人も「私がパートに出るから」と、あらいさんの背中を押した。かくして、家事と子育ての「主夫」兼漫画家としての生活が始まる。2ヶ月かけ、4コマ漫画を約120本を書き上げ、持ち込んだ。

ある出版社で、編集長に「今、何やってるの？」と聞かれた。夫人がパートに出て、自分は子育てをしながら漫画を描いていることを告げると「それを描けば良いじゃないか」。準備した漫画はすべてボツとなったが、私生活そのままの作品「やんちゃ君」が、当時の雑誌「まんがタイム」で連載スタートするきっかけになったという。

必然的に “受け継がれる”ものを

現在は漫画家でありながら、定期的な演奏会を開催するなど、音楽家の顔も持つ。またラジオ（NACK5）でパーソナリティを務めるなど、多方面で活躍するあらいさん。最後に、西高から新しい学校に、引き継ぎたい思いを聞いてみると、「特になし、ですね」とあっさり。もはや西高への思いは薄れたのか決してそうではない。「根付いているものは、必然的に引き継がれると思うんですよ」それこそが伝統であるというのが、あらいさん流の考えだ。あえて方策を整え引き継ぐのも不自然だし、まして押し付けることもない。卒業後も通い、楽曲まで残した学び舎がなくなることに、一抹の寂しさを感じつつも「新しく生まれ変わるということですからね」。最後に前向きな言葉をいただいた。

（聞き手：柿沼）